

企画・編集：堀内大右 大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学

序 説

放射線科医にとって、「見落とし」は常に付きまとう課題です。日々の読影において、多くの放射線科医が悩まされるこの「見落とし」を回避するには、留意すべきポイントや陥りやすいピットフォールを十分に理解することが不可欠です。そこで、本特集『読影前に確認したい 見落としがちな画像集』は、画像診断において見落としを回避するためのポイントやピットフォールを体系的に集約することを目的として企画しました。

2025年4月号に掲載される本特集は、特に4月から新たに放射線科医としてのキャリアをスタートされる先生方をはじめとする若手の先生方に、ご一読いただきたいテーマと考え、主要な領域について日常臨床で比較的遭遇する頻度が高い疾患を中心とした内容としました。また、若手の先生方だけでなく、経験豊富な中堅以上の先生方にとっても、ご自身の読影を振り返る機会を提供し、新たな知見が得られる内容であると考えます。

中枢神経系は東京大学医学部 放射線医学講座 黒川遼先生，胸部は大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学 松下周先生ら，消化管は滋賀医科大学 放射線科 井上明星先生，肝・胆・膵は神戸大学医学部附属病院 放射線診断・IVR科 山口尊先生ら，泌尿器は慶應義塾大学医学部 放射線科学教室（診断） 八木文子先生ら，女性骨盤は自治医科大学附属病院 画像診断科 奥山枝里子先生ら，骨軟部は京都府立医科大学 放射線科 秋山新平先生，大血管は大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学 浅野数男先生らが，それぞれの領域についてご自身の知識やご経験を基に，読影時に留意すべきポイントやピットフォールについて，豊富な症例とともに詳細に解説してくださいました。いずれも画像診断において「見落とし」を回避するためのエッセンスが，限られた誌面に凝縮された玉稿ぞろいであり，日常臨床にすぐに役立つ素晴らしい内容であると編者として確信しています。

最後に，ご多忙のなか，快くご執筆いただきました先生方に改めて深謝申し上げます。また，企画・編集に際して多大なご助力を賜りました大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学 三木幸雄教授，宮崎大学医学部病態解析医学講座 放射線医学分野 東美菜子教授にも，この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本特集が，読者の先生方の日々の読影の一助となれば幸甚です。

堀内大右